様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｈ０３４６２

研究課題名（和文）“ 帝国 ”周縁部における国勢調査・人口調査の比較研究

研究課題名（英文）comparative study on the records of national sensuses related to periphery of the Empires in East Asia

研究代表者
中見　立夫（NAKAMI, Tatsuo）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・名誉教授

研究者番号：２０１３４７５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　10,900,000円

研究成果の概要（和文）：ロシア帝国、清朝、さらには帝国日本もその領域内に多くの民族集団を含んでいた。それらが近代的な国民統計・人口調査事業の対象となったのは19世紀以降である。本研究課題では、ロシア帝国周縁部、清朝辺境、あるいは帝国日本の周縁住民に関する人口調査がそれぞれの国勢調査事業のなかでどのように行われ、調査資料が現在、どのように保管されているかを研究活動の中心とした。調査資料が保管されているロシア、モンゴル、中国などの文書館で調査した。この結果、20世紀初頭における「モンゴル系」住民の総人口数と分布や、いわゆる「満洲族」に分類される人々の総人口数と分布状況が明らかとなり、また調査方法の特徴も明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年、国民の定義や国民統合や民族の形成に関する問題が関心を集めているが、その基礎となるのは国勢調査・人口調査のデーターであり、東アジア地域では、19世紀後半より、様々な国家により調査事業はおこなわれたが、この研究課題実施により、たとえば「モンゴル人」、「満洲人」というひとびとがロシア帝国、清朝でどのように調査対象となったか、また支配下においた日本の植民地機関はどのように識別したかを初めて明らかとした。

研究成果の概要（英文）：Within the territory of Imperial Russia, Qing China and Imperial Japan, there various kinds of ethnic groups were living in their peripherical border area. Since 19th century, such population turned to be the object for national census done by their governments. How did the governments aim to collect the data of these ethnic people under her national census project and then investigate the national census? Where the materials and datas collected by the government are now deposited? In the frame of this research project we follow the way of producing the national census by the Imperial governments, putting focus to the population of the ethnic groups and the latest situation of the materials and datas related to such ethnic population living in its periphery of the empires at the archives in Russia, Mongolia and China. Using these data and materials, we try to estimate the total population of the Mongols and the so-called Manchus in Northeast Asia of the 19th and 20th centuries

研究分野：東洋史学

キーワード：国勢調査　人口調査　帝国の歴史　大清帝国　ロシア帝国　帝国日本　民族問題　帝国の周縁部

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景：近年、東アジア諸国における国勢調査事業の開始とその意義と歴史的展開が歴史学界においては注目されている。この国勢調査の問題は、近代国家において、国家に帰属する「国民」がどのように定義されたかの問題とも密接に関連しており、それと同時に領域内の民族集団に関する調査も国勢調査事業のなかで進行したからである。このような国勢調査（人口調査）の実態に注目し、研究課題として取り上げるに至った。

２．研究の目的：
東アジアの帝国（清朝、帝国日本）あるいはロシア帝国の周縁部分における人口調査の具体的方法を検討し（どのようにして人口の調査がおこなわれたか）、さらに国勢調査事業により収集されたデータと資料の状態と現存状況を明らかにすることに目的があり、関係帝国による国勢調査の成果を比較検討し、相互の関係性や影響も確認し、その結果として、例えば当時の「国境」を越えて分布・生活していた「モンゴル族（人）」「満洲族（人）」などは、どのような民族グループをさしていたのかをあきらかにするとともに、さらに、当時において把握されていた民族グループの総人口数を概算した。

３．研究の方法：
清朝においての憲法の施行とともにおこなわれた国勢調査（人口調査）の資料は北京の中国第一歴史档案館にあり（清朝民政部資料）、また各地域の人口調査資料は各地域の文書館（档案館）に保管されており、たとえば清朝時代、および 1910 年代のモンゴル人口調査資料に関してはモンゴル国立歴史中央アルヒーフにある。一方ロシア帝国の国勢調査（人口調査）の資料はモスクワの外務省文書館で調査することが可能である。一方、日本の植民地あるいは旧満洲地域に関する国勢調査（人口調査）資料は国立国会図書館、東洋文庫などに存在しており、これらの図書館・文書館での文書調査のうえで、手にいれたデータを集計し検討したのが研究活動の具体的方法である

４．研究成果
従来、国勢調査（人口調査）の関係史料を、ロシア、中国、モンゴルおよび日本の文書館などで総合的に調査したグループはなく、各国の関係研究者との学術交流でお互いに学術情報をえられたことが最大の成果である。たとえばモンゴル科学アカデミー歴史研究所の研究者グループは、われわれの活動から、ポーランドに保管される 20 世紀初頭のモンゴル人口資料に着目し共同研究を開始したが、中国側に伝わる清朝側資料は存在を知らず（漢語や満洲語の語学的ハンディもあるため）日本との将来的な共同研究（研究プロジェクトの組織や国際会議の実施）の提案を受けている。このような国際共同研究の先鞭をつけたのがなによりも最大の成果である。

５．主な発表論文等

→詳しくは、年度別実績報告書を参照されたい。

〔雑誌論文〕（計　12 件）
2018 年度としては,①中見立夫”On Babujab and His Troops: Inner Mongolia and the Politics of Imperial Collapse”*Russia's Great War and Revolution in the Far East* (Bloomington,2018)【査読有】,pp.352-368 ②青木雅浩「ルスクロフ―中央アジアとモンゴルを股にかけた革命家」『ロシア革命とソ連の世紀』（岩波書店、2018）【査読有】、67-68 頁。などがあり、2017 年度には③中見立夫「近代ハラチン研究之諸問題及び史料」『蒙古史研究』（中国蒙古史学会、2017）、15－23 頁。【査読有】、④広川佐保「２０世紀初頭内モンゴル東部における「文契」と「地券」『西域歴史語言研究集刊』第 9 巻（2017）、419－436 頁。【査読有】、2016 年度には⑤中見立夫”Kim Gugyeong as a pioneer of Manchu Studies in modern Korea”*Journal of Altaic Society of Korea*26-2(2016), pp.2-18.【査読有】青木雅浩「モンゴル人民共和国の対内モンゴル指令とその政治的影響」『東京外語大論集』93（2016）、1－19 頁。【査読有】などがある。

〔学会発表〕（計　7 件）
2018 年度としては①,中見立夫「日本人の“ 満洲 ” 発見―地域認識の実相」（大韓民国:釜山、満洲学会国際学術大会）、②野田仁「越境牧民的帰属在清朝与俄羅斯的外交談判上」（中国：上海、復旦大学中国辺疆史討論会）などがある。2017 年度には、③青木雅浩「黒木文書中のモンゴル関係史料」「シベリア出兵研究会」、2016 年度には④広川佐保「内モンゴルからみたハルハ・モンゴル」（モンゴル国：オラーンバートル第 11 回国際モンゴル学会』モンゴル語による発表）⑤,中見立夫「近代モンゴルの人口統計資料の特徴」（モンゴル国：オラーンバートル第 11 回国際モンゴル学会第 11 回国際モンゴル学会』、モンゴル語による発表）などがある。

〔図書〕（計　４件）
平成 2018 年度としては,①中見立夫『中央ユーラシア史研究入門』（sou 山川出版社、総 413 頁）や②野田仁 *Kazakh igrants and Soviet-Chinese Relations during 1940s: A Background of Xinjian Refugees to the Middle East*(ILCAA)、155 pp..2017 年には③中見立夫 *Jitsuroku in Modern East Asia* (財団法人東方学会、93 pp.）などがある。2016 年度には、④中見立夫『博物館という装置』（勉誠出版、総 416 頁）などがある。

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）→このような産業財産権を出願するような研究課題ではない

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
→とくに科研研究課題としては、ホームページを作成していないｈが、研究分担者および協力者の所属先のホームページで本科研研究課題が言及されることはある

６．研究組織

(1)研究分担者（1）
研究分担者氏名：青木　雅浩
ローマ字氏名：AOKI Masahiro
所属研究機関名：東京外国語大学
部局名：大学院総合国際学研究院
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：70631422

(1)研究分担者（2）

研究分担者氏名：野田　仁
ローマ字氏名：NODA Jin
所属研究機関名：東京外国語大学
部局名：アジア・アフリカ言語文化研究所
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：00549420

(2)研究協力者
研究協力者氏名：広川　佐保
ローマ字氏名：HIROKAWA　Saho
所属研究機関名：新潟大学
部局名：人文科学系
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：90422617

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。